

東アジア全体での個体群動向把握とモニタリングデータの活用

神山和夫 (バードリサーチ)

東アジアにおいて、日本・韓国・中国はガンカモ類の主要な越冬地になっている。これらの国々で行われている水鳥のモニタリング調査の記録を使ってガン・ハクチョウ類の越冬分布と個体数をとりまとめた結果が、2016年に発表された (Jia et al. 2016)。それによると、日本はオオハクチョウ、マガン、ヒシクイの越冬数が三カ国で最も多いことが分かった。一方、中国の越冬数は減少傾向にあり、土地開発や密猟が影響していると考えられている。

中国では国土の広大さのためにモニタリング調査は発展途上にあるが、韓国では1999年から毎年1月に全国で水鳥調査が実施されている。この調査は National Institute for Biological Resources (NIBR)が統括し、鳥の識別に詳しい大学教員、教員、NGO、大学院生などが二人一組で調査に当たっている。

近年日本での増加が著しいオオバンについて日本と韓国のモニタリング調査のデータを比較したところ、両国で同じ時期からオオバンの増加が見られることが分かった。日本と韓国では越冬しているガンカモ類のなかに繁殖地が共通している種がいたり、一方で越冬地を喪失した種が他方に移っている可能性がある。両国の調査関係者や研究者が共同でモニタリングデータを比較研究して、そうした種の動向を明らかにしていきたいと考えている。

参考文献

JIA, Q., KOYAMA, K., CHOI, C.-Y., KIM, H.-J., CAO, L., GAO, D., LIU, G. and FOX, A.D. (2016) Population estimates and geographical distributions of swans and geese in East Asia based on counts during the non-breeding season. Bird Conservation International. 1-21.